



「学びの変革」を更に加速させます！

“オール広島県”で、「広島で学んで良かった 広島で学んでみたい」と思える、日本一の教育県の実現を目指しています。

社会で起きている変化

- 世の中にあふれる情報
- グローバル化により、多様な価値観や文化に触れる機会が増加

変化に対応できる力が必要

- 情報や知恵を統合し、自ら深く考え、新たな答えを導き出す力
- 文化や考え方が異なる他者と協働し、問題を解決していく力

学びの変革

これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指し「主体的な学び」を促す教育活動を全国に先駆け実践

これまでとこれからの取組

第Ⅰ期(平成27年度～平成29年度)

- 児童生徒の「主体的な学び」を促すため、小・中学校では「『学びの変革』パイロット校」、高等学校では「探究コアスクール」「活用コアスクール」を指定し、「課題発見・解決学習プロジェクト」の研究開発に取り組みました。

第Ⅱ期(平成30年度～令和2年度)

- 第Ⅰ期の成果を踏まえ、「課題発見・解決学習推進プロジェクト」、「異文化間協働活動推進事業」、「『学びの変革』ICT活用推進プロジェクト」等を実施し、「学びの変革」の全県展開に取り組みました。

第Ⅲ期(令和3年度～)

- 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、これまでの取組の実践を基盤に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を一層推進していきます。

- 「本質的な問いによる授業改善」、「探究的な学習の充実」、「外国語教育の充実」等に取り組んでいます。今回は、「本質的な問い」による授業改善を詳しく説明します。

- 「個別最適な学び」(児童生徒一人一人の学習進度や能力、関心等に応じた、それぞれに最適な学び)を推進しています。

- 具体的な取組事例の1つとして、下記の「東大LEARN in 広島」を実施(令和2年度までは「東大ROCKET in 広島」)

東大LEARN in 広島

「ピーナッツを守れ！～人力で挑むか？テクノロジーで挑むか？～」が開催されました

不登校をはじめとする集団での学習になじめない児童生徒に対し、子供たちの知的好奇心を喚起するとともに、社会とのつながりを促し、学び続ける力の育成を目指すプロジェクト「東大LEARN in 広島」を6月下旬に開催しました。

プロジェクトは2日間に渡って開催。1日目はオンライン会議システムを使ってオンライン学習。「ピーナッツの敵は何だろう？」というテーマで「虫」「けもの」「鳥」「植物」という4つのチームに分かれ、ディスカッションをしました。

2日目は世羅町にあるユニオンファームせらにし ReSEED農園に集合。各チームに分かれて「ピーナッツの敵」を探索したり、農園の方から話を聞きながら、土を掘り起こして

県教育委員会と東京大学先端科学技術研究センターが描く未来の教育

ピーナッツの根を観察したり、農園にいる虫を图鉴で調べ、タブレットを使って撮影したり、さらに別のチームは農園を囲むネットに異常がないかをくまなく捜査したりしました。「証拠があった！」「こんな虫がいたよ！」「鳥の足跡がありました！」という子供たちの元気な声が農園に響きました。

今後も子供たち一人一人に応じた多様な「学びの場」の一つとして、県内各地で様々なプログラムを開催していきます。



「ピーナッツの敵」を探索中です



東大 LEARN in 広島 検索

「本質的な問い」による授業改善

児童生徒の学びを「知識伝達型の学び」から「主体的な学び」へと転換します。教師は、児童生徒の深い学びを促す質の高い問いを設定し、その問いに基づいて単元を構想できる授業力を身に付けていくことが必要です。そのために、「カリキュラムの質的向上」や「教員研修の更なる充実」を推進しています。



(1) 「本質的な問い」とは

「本質的な問い」を基にして、各単元での学びがあることを意識し、「生きること」と教科等の学びとを結び付けます。そのために3つの問いがあります。

①本質的な問い

一つの明確な答えがあるわけではなく、生涯において何度も問い直され、その答えが更新され続けるような問いです。

②単元を貫く問い

「本質的な問い」に基づいて立てられた、児童生徒が教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせるための問いであり、単元を通して考え深めていく問いです。

③個別の問い

「単元を貫く問い」を解決していくために必要で、単元を構成する授業内で身に付ける知識・技術等につながる問いです。

(2) 「本質的な問い」に基づく単元の構想

児童生徒は「問い」について考える中で深い学びへと向かっていきます。

中学校社会科(歴史的分野)「ギリシャ・ローマの文明」を例

①本質的な問い

- 資質・能力の育成につながる … 「私はどう生きるのか」
 - 学ぶ意義を考える … 「私は何のために学ぶのか」
 - 当該教科を学ぶ意義を考える … 「社会科を学ぶ意義は何か」
 - その領域等を学ぶ意義を考える … 「歴史を学ぶ意義は何か」
- 各教科の「見方・考え方」を踏まえて … 「過去は未来にどう影響しているのだろう」

②単元を貫く問い

「①本質的な問い」を踏まえて…
「ギリシャ・ローマの文明は、私たちの生活とどのようにつながっているだろう」

③個別の問い

「②単元を貫く問い」を踏まえて…
「ギリシャ・ローマの文明は、どのように起こり、どのように発展していったのか？」

各教科等

(3) 「本質的な問い」に基づく教科等横断的な単元の構想

教科等横断的な視点で組み合わせることは、教科等や学年の間につながりを持たせ、学びに意味を与える働きを持ちます。

①本質的な問い(小学校の例)

「伝える」ってどういうことだろう？

小学校国語科(読むこと)「新聞を読もう」

小学校社会科「情報化した社会と産業の変化」

②単元を貫く問い

書き手の伝えたいことは何だろう。(同じ出来事を取り上げた新聞記事でも、記事の内容や書き方が違うのはなぜだろう)

②単元を貫く問い

メディアは、私たちの生活にどのような影響を与えているのだろう。

③個別の問い

- 新聞というメディアの特徴は何だろう。
- 見出しやリード文にはどんな効果があるのだろう。



③個別の問い

- 私たちはどのようにして情報を得ているのだろう。
- メディアの中で、新聞はどのような特徴があるのだろう。